

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

東松島市教育委員会

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3 参加児童生徒

東松島市内の小学校6年生（351人）、中学校3年生（364人）

4 調査結果による全体的傾向の概要

(1) 教科に関して

小学校の国語と算数はA・Bとも県及び全国の平均正答率を下回っており、昨年度よりも県及び全国との差が広がった。経年変化を見ると特に国語Aは、この5年間の中で最も全国との差が大きい結果となった。小学校の理科は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題において、県・全国の平均正答率を下回っている。

中学校の国語はA・Bとも県・全国の平均正答率を下回っているが、昨年度に比べ県・全国との差が小さくなり、改善傾向が見られる。数学A・Bも、県・全国の平均正答率を下回っているものの、国語と同様に県・全国との差が小さくなり改善傾向が見られる。特に数学Aは、ここ5年間の中で全国との差が最も小さく、数学Bも2番目の結果となった。理科は、「活用」に関する問題では県・全国の平均正答率を下回っているものの、「知識」に関する問題では県・全国と同程度の正答率であった。

※ 平均正答率…各児童生徒について全設問における正答数の割合を算出した値（個人の正答率）を足し合わせ、児童生徒の人数で割った値のこと。

(2) 生活習慣等に関して

【小学生】

小学生の「朝食、寝る時刻、起きる時刻」については、県・全国とほぼ同じ結果となっているが、特に寝る時刻に関しては、昨年度よりもよい結果が得られた。同様に「家庭での会話」についても、昨年度よりもよい結果であったが、県や全国との差がある。

昨年度までのテレビやDVD、ゲーム、インターネットに関する質問がなくなったが、生活の中でテレビやDVD、ゲーム、インターネットをして過ごす割合を見ると、放課後は84.9%であり、週末となると89.7%と高くなっている。

【中学生】

中学生の「朝食」と「起きる時刻」については、県・全国を上回り、望ましい結果を得ることができた。反面「寝る時刻」については県・全国を下回り、課題であることがわかった。また、昨年度課題であった「朝食をまったくとらない生徒」「家族との会話をまったくしていない生徒」については、やや改善傾向が見られた。

生活の中でテレビやDVD、ゲーム、インターネットをして過ごす割合を見ると、放課後は74.5%であり、週末となると85.5%と高くなっている。

(3) 学習時間等に関して

【小学生】

小学生の「自分で計画を立てて勉強する」は、昨年度よりも大きく改善し、県・全国を上回っている。家庭学習の時間に関しては、昨年度よりも改善し、「平日に1時間以上学習している児童」については著しく増加した。全体的には、学習意欲や主体的学習態度は向上している。

【中学生】

中学生の「自分で計画を立てて勉強する」は、昨年度よりも改善したものの県・全国よりも下回っている。家庭学習の時間に関しては、昨年度よりも改善し、「平日に1～3時間」学習している生徒の割合が大幅に増加したことは好ましい傾向である。全体的には、学習意欲や主体的学習態度は向上している。

(4) 自尊感情・規範意識等に関して

【小学生】

全般的に昨年度よりも肯定的回答を示しており、自尊感情及び規範意識は、次第に高まっている。特に昨年度、県・全国よりも低かった「自分にはよいところがあるか」の質問結果は大きく伸び、県・全国とほぼ同様となった。また、「学校のきまりを守っているか」の質問にも肯定的な回答が多く、県・全国よりも上回っている。規範意識の向上が見られ、素直な児童が多いと捉えられる。

【中学生】

小学生と同様に全般的に昨年度よりも肯定的回答を示しており、自尊感情及び規範意識は次第に高まっている。反面、「自分には、よいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の項目では県・全国よりも下回っている。生徒のよさを褒め、自己肯定感をもたせる指導・支援を徹底するとともに夢や目標をもたせ、学習意欲を向上させることが必要である。

小中学校ともに「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の質問は昨年度以上に伸びている。今後も「心あったかイートころ運動」の継続により、児童生徒の活動を認めたりすることで自己有用感をさらに伸ばしていきたいと考える。

5 調査結果（データ）の概要

5-1 教科に関する調査結果



(1) 正答率一覧（単位%）

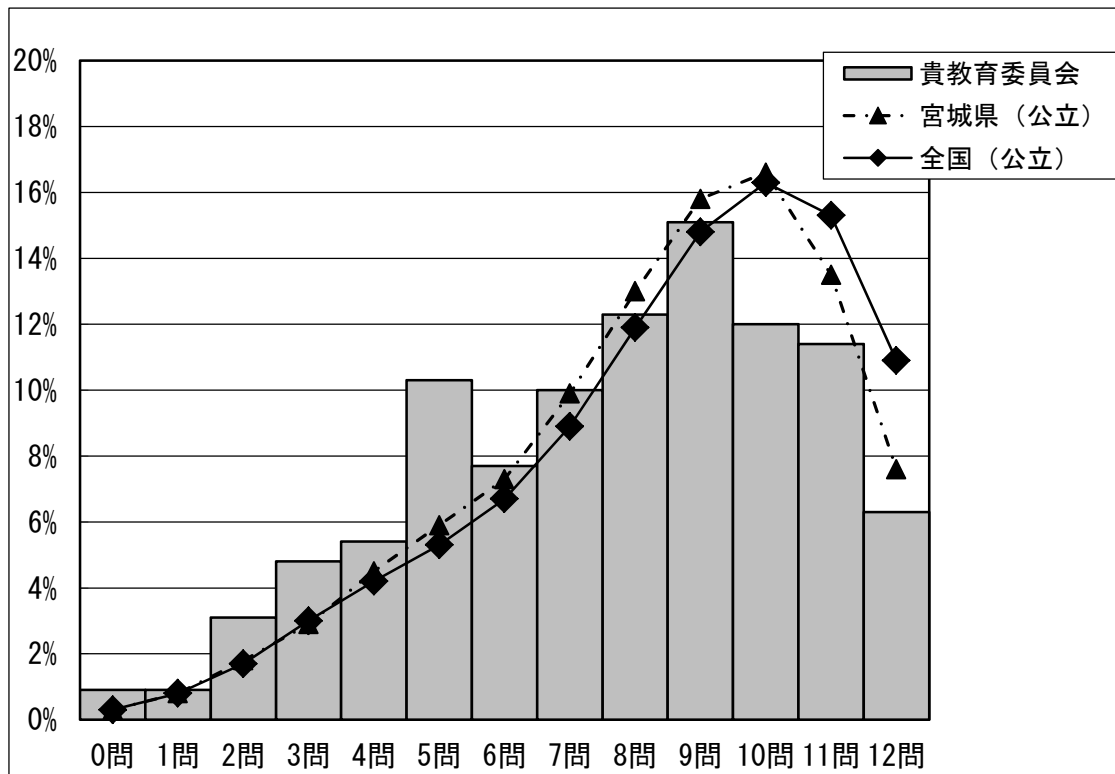
		国語「知識」に関するA問題		国語「活用」に関するB問題	
		30年度	29年度	30年度	29年度
小 学 校	本市	64.0	73.0	49.0	55.0
	県	69.0	74.0	53.0	56.0
	(県との比較)	(-5.0)	(-1.0)	(-4.0)	(-1.0)
6 年	全国	70.7	74.8	54.7	57.5
	(全国との比較)	(-6.7)	(-1.8)	(-5.7)	(-2.5)
中 学 校	本市	74.0	70.0	56.0	64.0
	県	77.0	77.0	62.0	73.0
	(県との比較)	(-3.0)	(-7.0)	(-6.0)	(-9.0)
3 年	全国	76.1	77.4	61.2	72.2
	(全国との比較)	(-2.1)	(-7.4)	(-5.2)	(-8.2)

		算数・数学「知識」に関するA問題		算数・数学「活用」に関するB問題	
		30年度	29年度	30年度	29年度
小学校 6年	本市	56.0	75.0	43.0	40.0
	県 (県との比較)	62.0 (-6.0)	77.0 (-2.0)	49.0 (-6.0)	44.0 (-4.0)
	全国 (全国との比較)	63.5 (-7.5)	78.6 (-3.6)	51.5 (-8.5)	45.9 (-5.9)
中学校 3年	本市	62.0	53.0	42.0	37.0
	県 (県との比較)	65.0 (-3.0)	63.0 (-10.0)	47.0 (-5.0)	47.0 (-10.0)
	全国 (全国との比較)	66.1 (-4.1)	64.6 (-11.6)	46.9 (-4.9)	48.1 (-11.1)

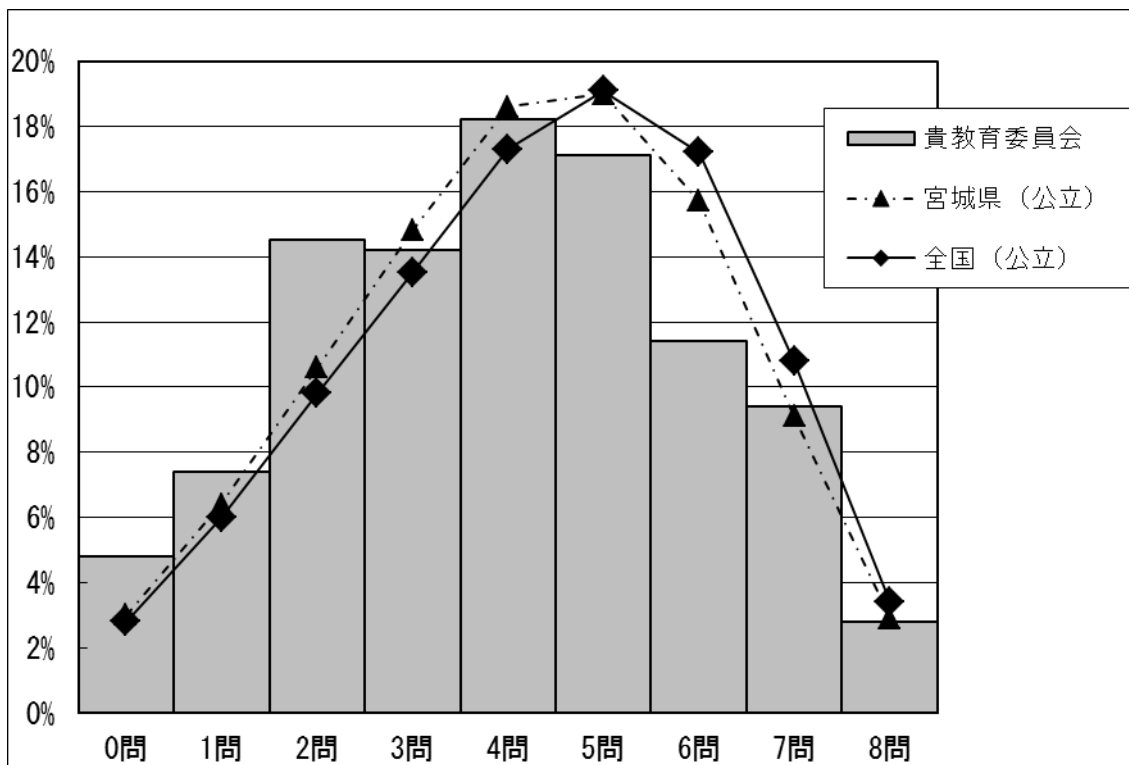
		理科「知識」	理科「活用」
		30年度	30年度
小学校 6年	本市	70.0	50.0
	県 (県との比較)	75.0 (-5.0)	55.0 (-5.0)
	全国 (全国との比較)	73.6 (-8.0)	56.2 (-6.2)
		理科「知識」	理科「活用」
		30年度	30年度
中学校 3年	本市	68.0	62.0
	県 (県との比較)	69.0 (-1.0)	66.0 (-4.0)
	全国 (全国との比較)	67.9 (+0.1)	64.9 (-2.9)

(2) 正答数の分布

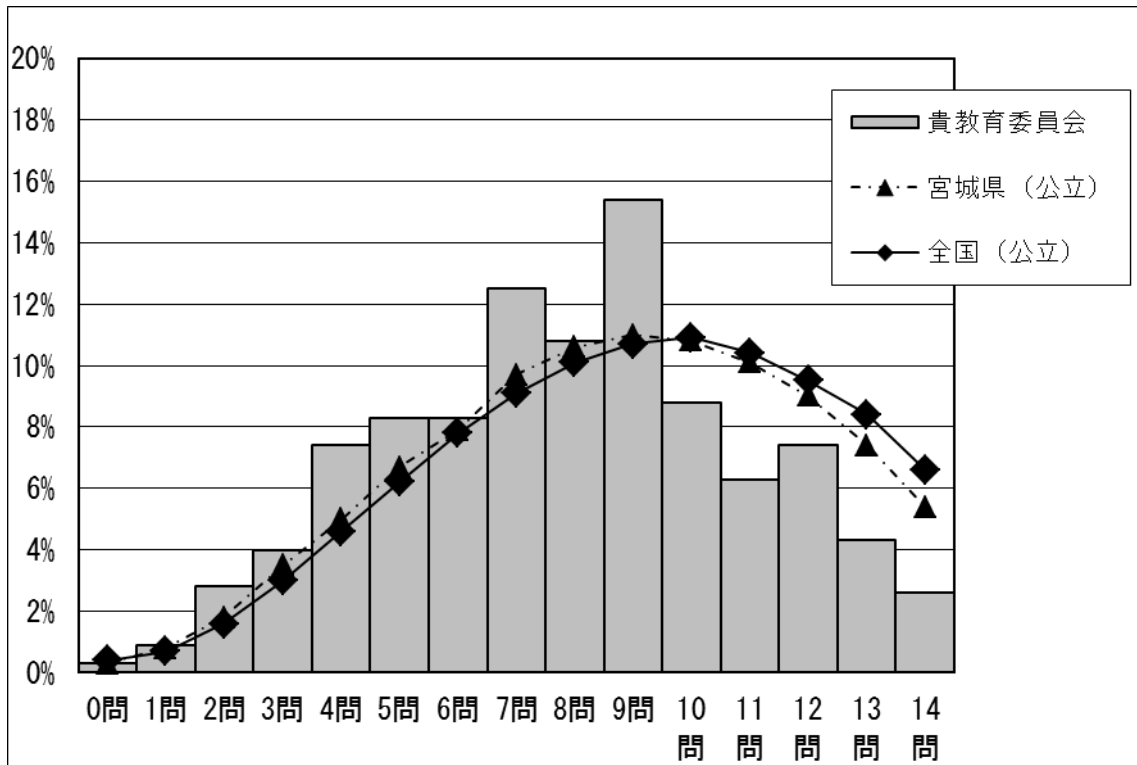
本市  ---▲--- 宮城県  —◆— 全国 縦軸…人数割合 横軸…正答数
 小学校国語 A



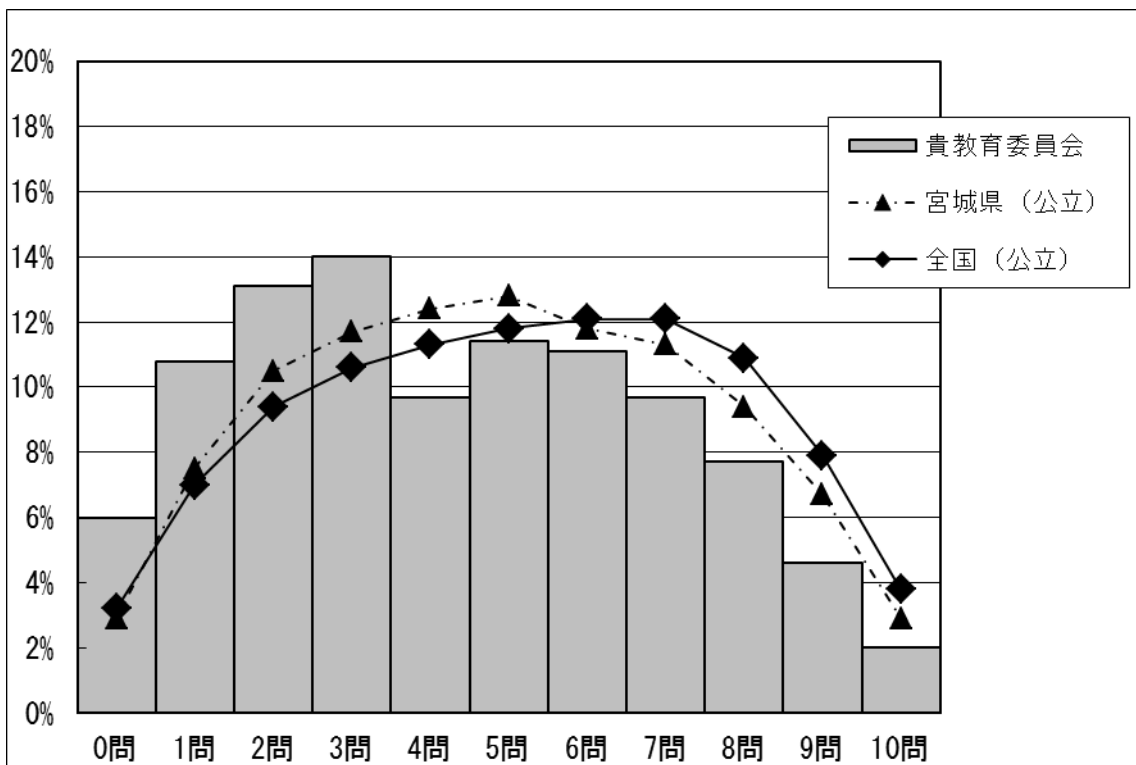
小学校国語 B



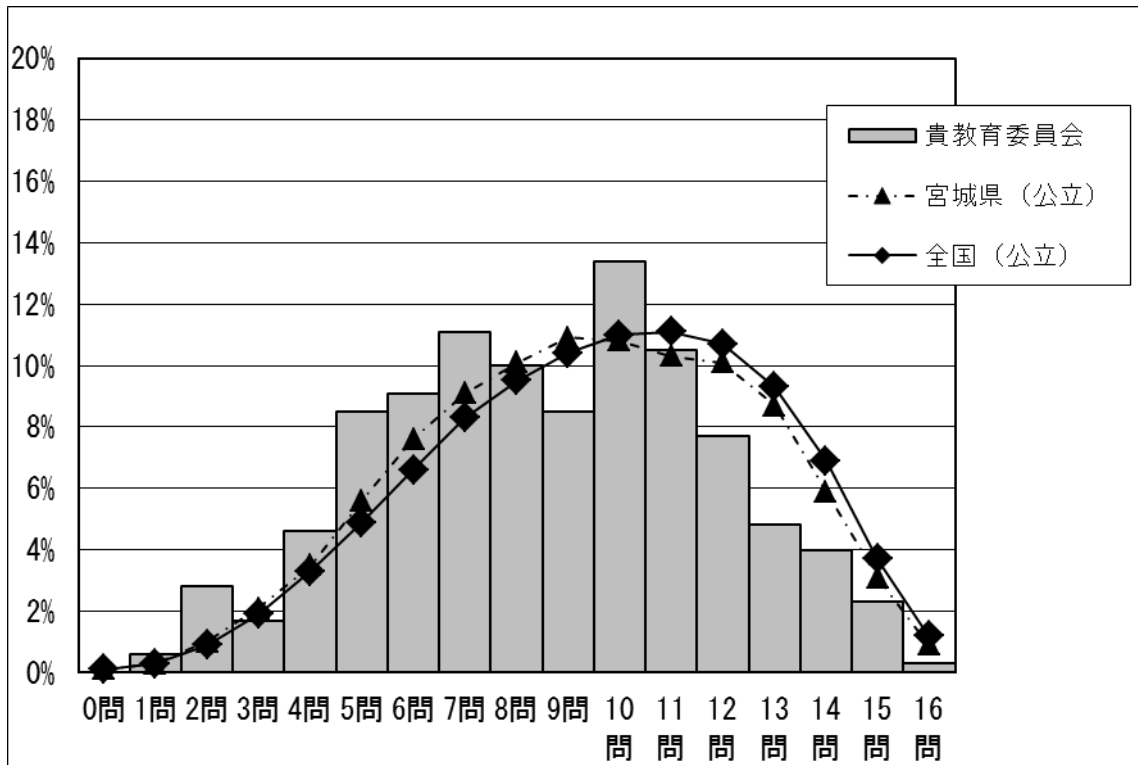
小学校算数 A



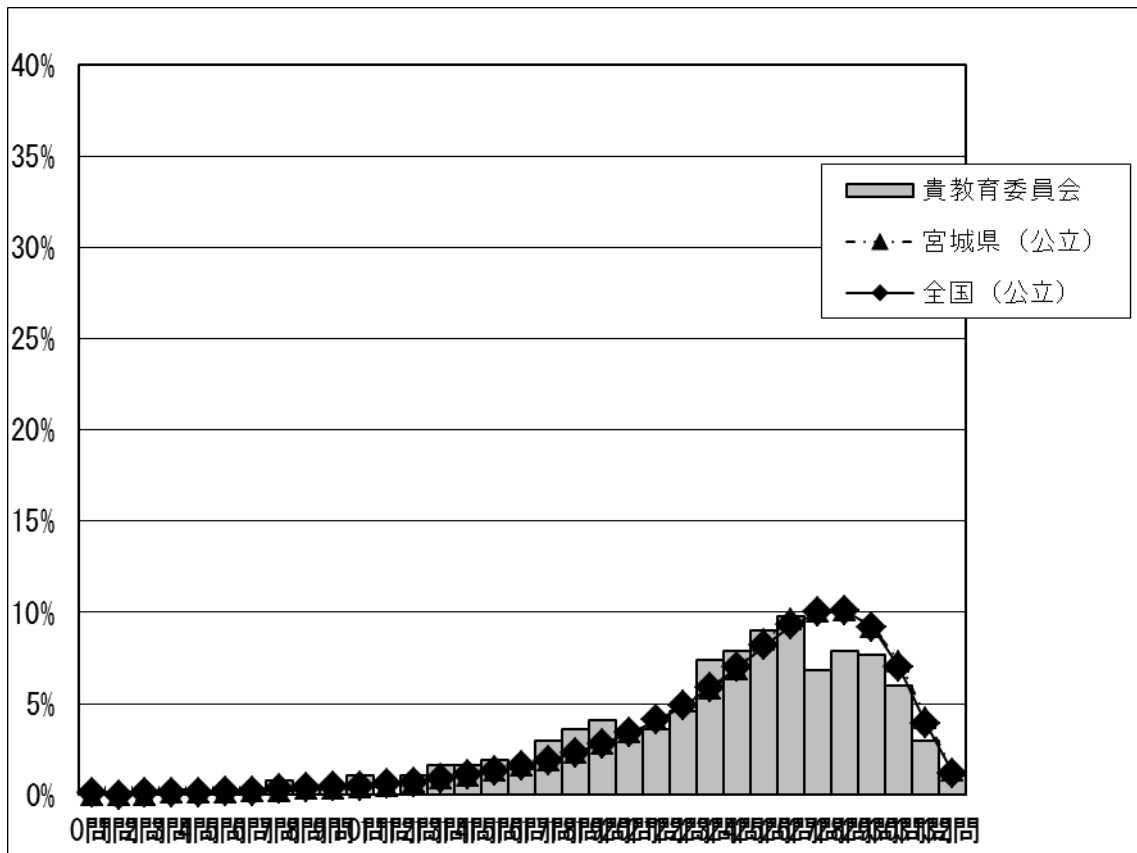
小学校算数 B



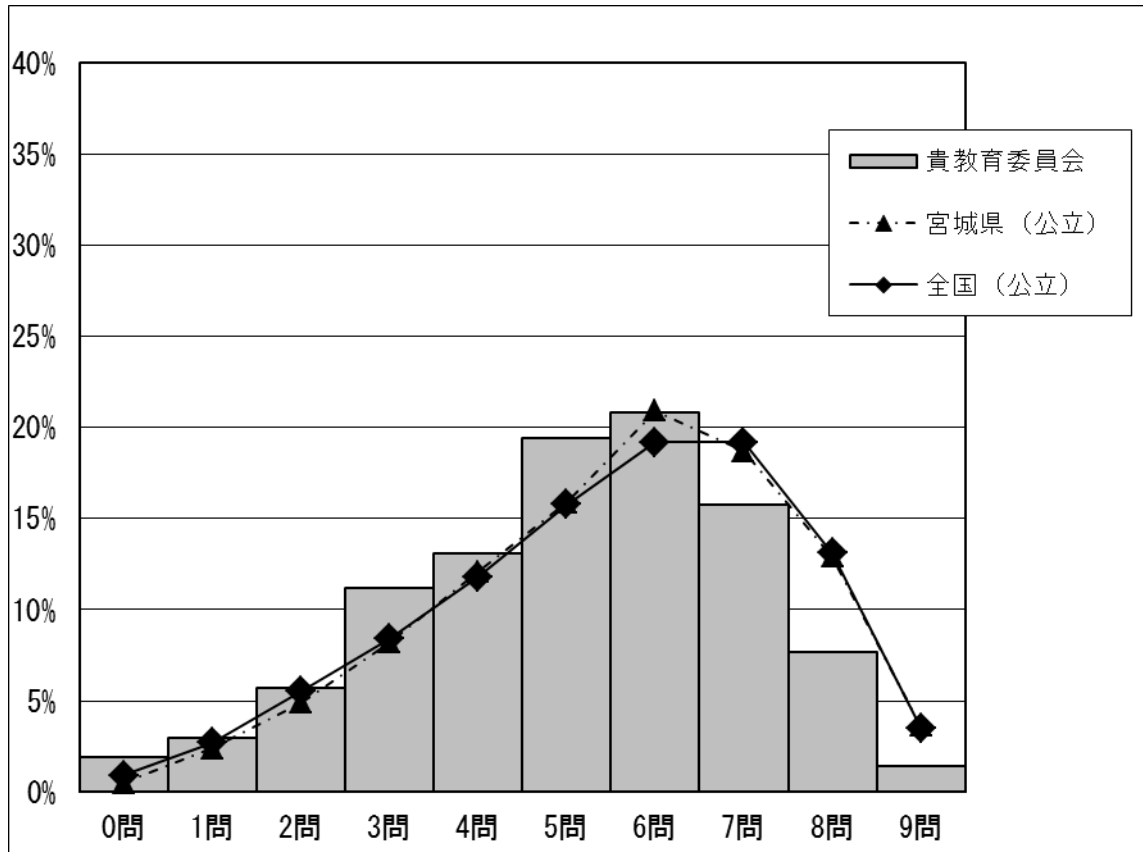
小学校理科



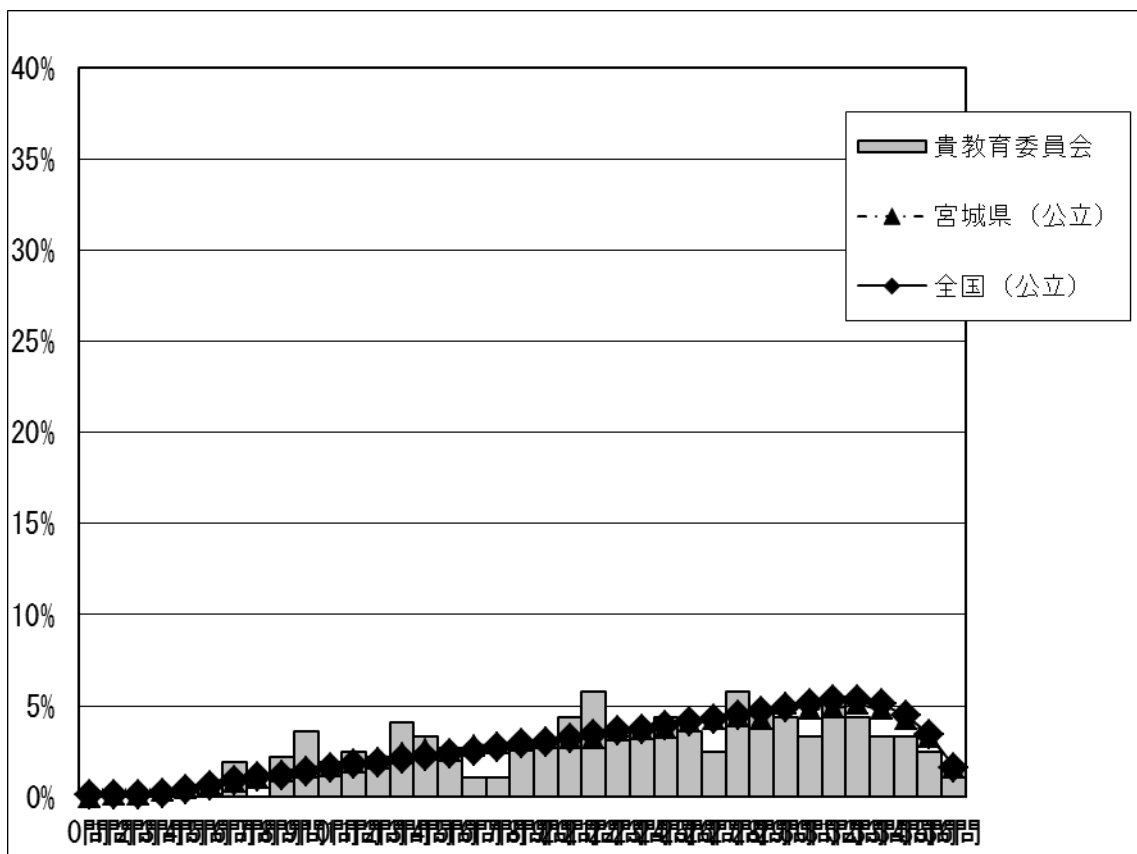
中学校国語 A



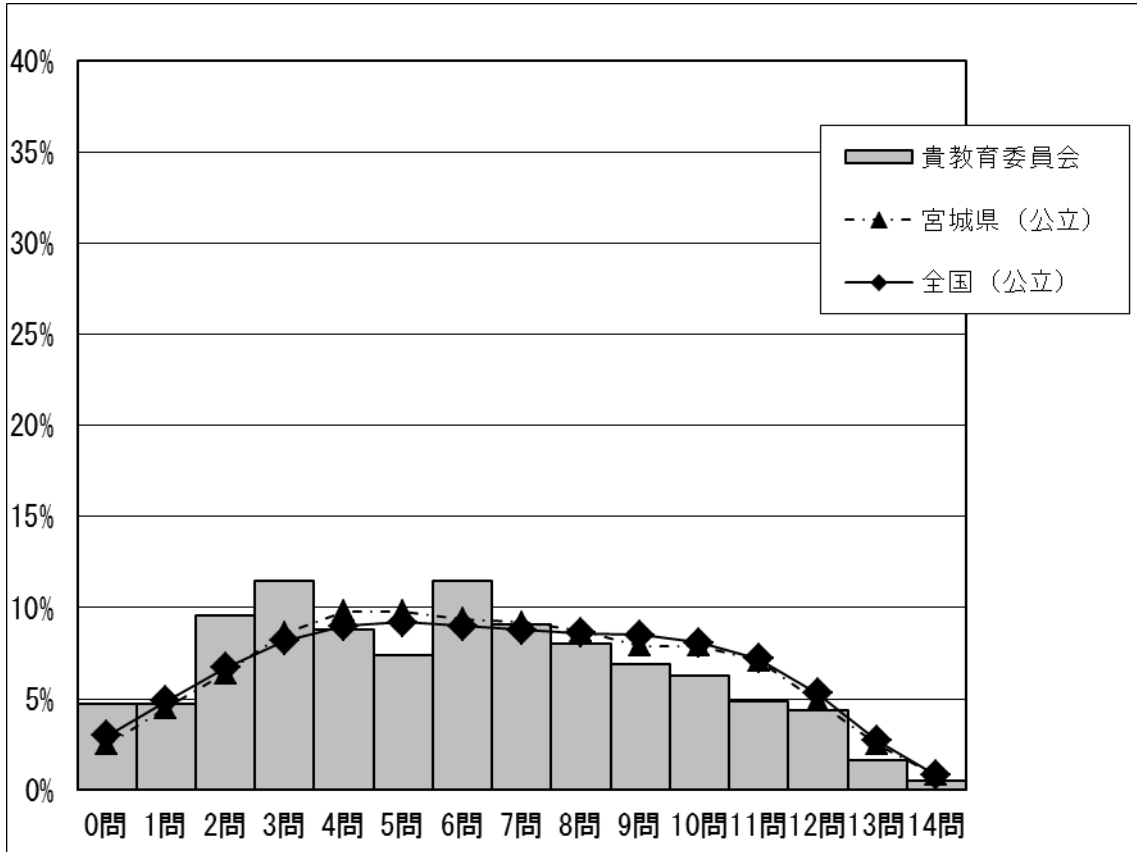
中学校国語 B



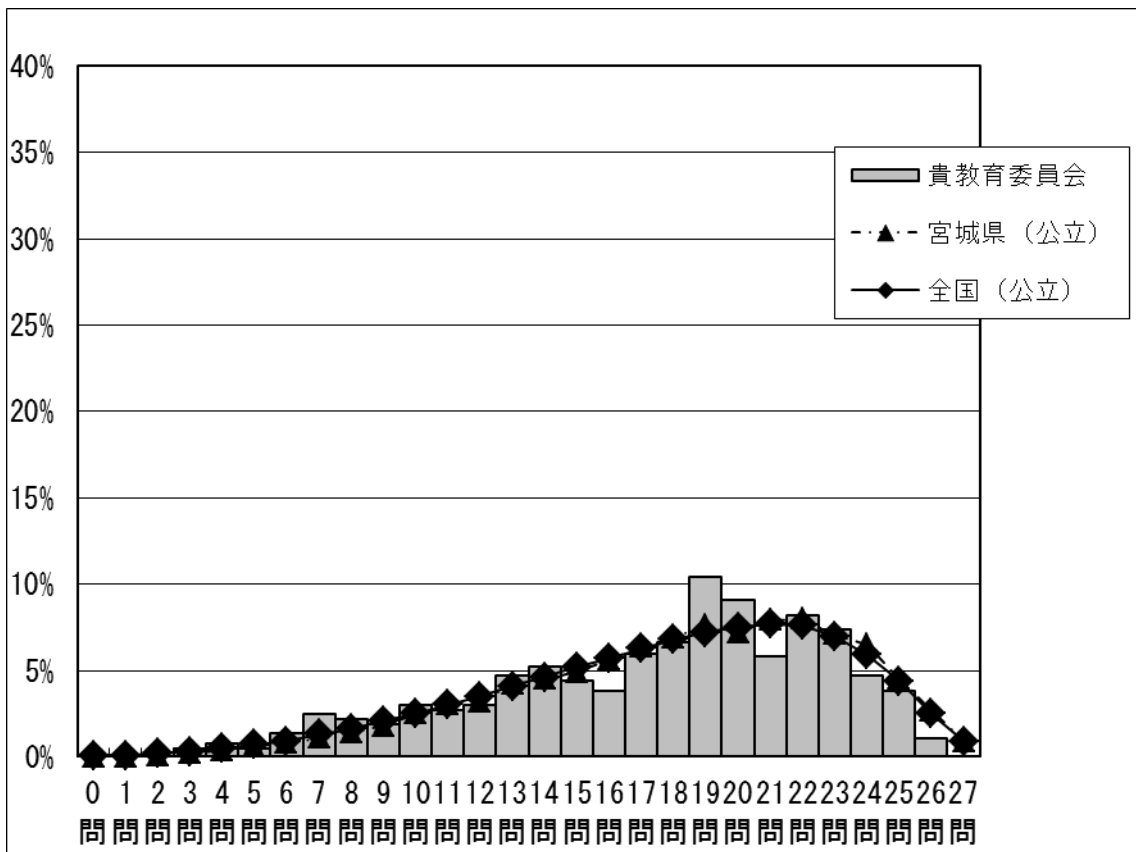
中学校数学 A



中学校数学 B



中学校理科



5-2 学習や生活習慣の様子について

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

[単位%, ()は県との比較]

質問事項			小学校	中学校
1	算数・数学の勉強は好きですか。	H30	63.3 (-1.0)	51.5 (-2.0)
		H29	58.6 (-7.0)	46.7 (-8.3)
		H28	61.1 (-5.2)	60.0 (+4.7)
2	算数・数学の勉強の内容はよくわかりますか。	H30	83.0 (±0)	65.8 (-4.1)
		H29	76.2 (-3.9)	56.5(-11.3)
		H28	71.5 (-8.1)	70.2 (+2.5)
3	算数・数学の勉強は大切だと思いますか。	H30	89.2 (-2.3)	82.2 (-1.8)
4	数学ができるようになりたいですか。	H30		93.1 (+0.4)
5	理科の勉強は好きですか。	H30	80.0 (-4.2)	70.1 (+5.0)
6	理科の勉強は大切だと思いますか。	H30	83.2 (-1.6)	69.1 (-3.0)
7	理科の授業の内容はよくわかりますか。	H30	86.9 (-2.9)	72.9 (+2.0)

算数（数学）の勉強が「好き」と回答している小・中学生の割合は、昨年度と比べ県との差が小さくなりました。また、小学校算数の「授業内容の理解」は県と同程度であり中学校数学の「授業内容の理解」についても昨年度と比較すると県との差が縮まりました。

(2) 基本的な生活習慣, 家庭生活, 家庭でのコミュニケーション

[単位%, ()は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	朝食を毎日食べていますか。	H30	94.6 (-0.5)	94.5 (+1.2)
		H29	94.3 (-1.5)	92.1 (-1.8)
		H28	94.2 (-2.1)	91.9 (-2.6)
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	H30	80.1 (-0.3)	73.2 (-4.9)
		H29	78.2 (-4.9)	75.7 (-3.8)
		H28	78.7 (-4.3)	75.7 (-3.6)
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	H30	90.0 (+6.0)	93.1 (+1.7)
		H29	90.9 (-0.4)	87.9 (-5.1)
		H28	87.6 (-4.1)	91.4 (-1.4)
4	家の人と学校での出来事について話をしていますか。	H30	77.2 (-4.2)	76.2 (-1.9)
		H29	76.7 (-2.4)	72.3 (-4.8)
		H28	76.0 (-4.5)	70.0 (-5.9)

No	質問事項	年度	小学校	中学校
5	放課後に何を して過ごすことが 多いですか。	1 家で勉強や読書	68.4 (+1.1)	41.1 (-2.1)
		2 放課後児童教室や放課後児童クラブ	8.4 (+1.1)	
		2 学校の部活動		97.0 (+6.2)
		3 地域の活動に参加	6.3 (-0.4)	2.5 (+0.7)
		4 学習塾などで勉強	26.8 (+2.0)	32.6 (-2.6)
		5 習い事(スポーツ除く)	37.3 (-1.7)	14.2 (+0.2)
		6 スポーツ(スポーツの習い事含む)	41.0 (-0.2)	21.9 (+0.1)
		7 家でTV・DVD・ゲーム ・インターネット	84.9 (+2.2)	74.5 (+0.4)
		8 家族と過ごす	69.2 (+3.0)	50.4 (+1.1)
	9 友達と遊ぶ	69.5 (-5.8)	30.4 (-3.0)	
	週末に何を して過ごすことが 多いですか。	1 学校で授業	18.2 (+4.1)	9.6 (-2.0)
		2 家で勉強や読書	59.3 (-1.4)	41.1 (-3.5)
		3 学習塾などで勉強	9.1 (-2.5)	13.4 (-6.9)
		4 習い事(スポーツ除く)	19.1 (-2.4)	6.0 (-2.7)
		5 スポーツ(スポーツの習い事含む)	33.9 (-4.3)	19.5 (-2.7)
		6 地域の活動に参加	12.3 (+0.5)	4.7 (+0.7)
		7 家でTV・DVD・ゲーム ・インターネット	89.7 (+4.7)	85.5 (+4.9)
		8 家族と過ごす	81.8 (+0.7)	64.9 (+2.1)
		9 友達と遊ぶ	65.8 (+3.1)	54.2 (+3.1)
10 学校の部活動			77.8 (+0.3)	

「毎日同じ時間に起きている」と回答した小・中学生の割合は、ともに昨年度よりも増え、県よりも良い結果が得られた。

「放課後に何をして過ごすことが多いですか」という問いに対し、「家で勉強や読書」と答えた小学生の割合は、昨年度よりも増加し、県の平均を上回った。また、「家族と過ごす」と回答した小・中学生の割合も増えた。反面、放課後や週末に「家でTV・DVD・ゲーム・インターネットをして過ごす」と回答した児童・生徒の割合は県の平均をともに上回った。

(3) 学習時間等

[単位%, ()は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	H30	73.2 (+1.5)	48.4 (-8.0)
		H29	60.6 (-8.2)	47.0 (-9.3)
		H28	64.0 (-3.3)	45.7 (-6.5)
2	家で学校の宿題をしていますか。	H30	97.4 (-0.3)	90.7 (-0.9)
3	家で学校の授業の予習・復習をしていますか。	H30	73.5 (+1.7)	68.7 (+1.5)

4	学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。	3時間以上	H30	8.3 (+0.9)	6.6 (-0.9)
		2～3時間	H30	20.5 (+4.1)	23.6 (-0.5)
			H29	22.4 (+0.6)	24.3 (-6.7)
			H28	19.9 (-0.6)	27.7 (-1.2)
		1～2時間	H30	38.7 (-4.7)	42.7 (+5.2)
			H29	34.0 (-9.6)	34.8 (-2.1)
			H28	34.6 (-9.3)	36.6 (-0.7)
		30分～1時間	H30	24.2 (-0.9)	15.6 (-2.8)
			H29	29.2 (+4.0)	19.5 (+0.5)
			H28	33.7 (+7.4)	17.8 (-1.9)
		30分未満	H30	7.4 (+1.5)	7.1 (+1.0)
			H29	12.7 (+5.7)	11.9 (+3.4)
			H28	10.1 (+2.9)	9.9 (+1.3)
		全くしない	H30	0.9 (+1.7)	4.4 (+0.1)

小・中学生とも昨年度同様に平日・週末の学習時間が県と比べて低い数値を示しています。学習時間が「30分前後」に集中しているということは、学校からの宿題を終えると家庭学習を終えてしまう児童・生徒が多い可能性があります。家庭での自主学習の工夫や学年の発達段階に応じた学習時間を小中連携の中で位置付けていくことも大切です。

「自分で計画を立てて学習する」「家で予習・復習をする」といった家庭学習の習慣化に結びつくように『家庭も学びの場』（東松島市教育委員会作成リーフレット）の積極的な活用を進めて参ります。

（４）自分を大切にしたいことや社会のルールを守ろうとする意識

[単位%、（ ）は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	自分にはよいところがあると思いますか。	H30	83.7 (+0.3)	72.5 (-6.2)
		H29	75.1 (-1.6)	63.9 (-6.1)
		H28	66.0 (-7.9)	61.6 (-6.6)
2	先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	H30	84.9 (±0)	74.5 (-8.4)
3	将来の夢や希望をもっていますか。	H30	84.1 (-1.3)	68.2 (-4.6)
		H29	86.7 (+0.7)	62.1 (-9.7)
		H28	89.3 (+3.7)	73.7 (+2.5)
4	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	H30	94.9 (+0.6)	94.5 (+0.3)
		H29	90.7 (-0.4)	91.8 (+0.5)
		H28	91.1 (-1.6)	95.3 (+3.5)
5	学校のきまり（規則）を守っていますか。	H30	94.9 (+5.0)	94.8 (+0.1)
		H29	94.6 (+2.5)	92.9 (-2.1)
		H28	86.2 (-5.5)	93.7 (-0.4)

6	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	H30	96.0 (-1.1)	93.2 (-2.5)
		H29	96.3 (+0.1)	90.0 (-2.6)
		H28	93.3 (-3.5)	96.6 (+2.9)

「人の役にたつ人間になりたいと思うか」「学校のきまり（規則）を守っているか」の回答では、小・中学生ともに県の平均を上回っている。市全体で取り組んできた「心あったかイートころ運動」の成果の一つであるといえる。今後も、教育活動の中で意図的に児童・生徒に「自己存在感を与える」「自己決定の場面を与える」「共感的な人間関係（児童・生徒・教師・保護者・地域の人々も含めて）の構築」といった生徒指導の三機能をふまえた継続的な指導を行うことが大切である。

5-3 生活習慣と学力の関係について

(1) 生活習慣（就寝時間）と学力の関係

校種		平均正答率 (%)				
		国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B	理科
小学校	同じ時間に寝る	68.9	53.7	61.1	46.3	55.8
	同じ時間に寝ない	51.1	42.5	45.7	26.7	44.2
中学校	同じ時間に寝る	70.5	55.1	61.9	42.4	61.7
	同じ時間に寝ない	69.9	44.9	52.2	28.3	53.7

(2) 生活習慣（起床時間）と学力の関係

校種		平均正答率 (%)				
		国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B	理科
小学校	同じ時間に起きる	67.3	53.5	61.1	47.5	56.9
	同じ時間に起きない	58.3	46.9	42.9	26.3	44.5
中学校	同じ時間に起きる	73.8	58.3	64.1	45.5	65.2
	同じ時間に起きない	66.1	44.4	42.6	28.6	50.0

6 「確かな学力」の育成に向けた本市の取組

児童生徒の学習支援	教師の指導力向上	教育環境整備支援
◎学び支援事業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・平日放課後の学習支援 ・週末の学習支援 ・長期休業での学習支援 	◎校内研究・指導主事訪問の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施 ・協働研究の充実 ・一人一回の研究授業 	◎各種支援員の配置 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員 ・学校相談員 ・学校図書館支援員
◎読書のすすめ <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援員を配置 ・読み聞かせボランティアの活用 ・市図書館との連携 	◎各種研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語 ・教師塾 ・市教科等研究員 ・Q-U 活用研修会 	◎コミュニティスクールの取組充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学校環境改善の支援 ・学校運営協議会での学力向上策検討や熟議の実施
◎「家庭も学びの場」 <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットの積極的な活用 ◎ALT の配置 (英語で話そう)	◎CRT・全国学力・学習状況調査の活用 ◎魅力ある学校づくり事業	◎授業日数増加 ◎教室へのエアコン整備 ◎ICT 環境の整備

本市では、宮城県教育委員会が示している「学力向上に向けた5つの提言」(※)を踏まえ、児童生徒の「確かな学力」の向上を図るため、次のような取組を行っております。

(1) 授業改善に向けて

- ① 全国学力・学習状況調査や CRT 検査の分析及び普段の授業から見られる課題等をもとに、児童生徒の実態把握に努め、学力向上に向けた具体策を構築し、その徹底と継続に努めます。
- ② 各中学校区の小・中連携(矢本一中、矢本二中、鳴瀬未来中の小・中学校連携)による授業参観や学力向上の研修会を行い、小・中学校の円滑な接続に努めています。
- ③ 各学校で教科・テーマを決めて取り組んでいる学力向上に向けた校内研究を一層活性化し、外部指導者等を招聘するなどして教員の授業力向上に努めています。
- ④ 今年度は市内小・中学校の教員12名に教科等研究員を委嘱しました。教科等研究員は、市内小・中学校の学校訪問において授業参観や各教科分科会へ参加をしたり、児童生徒の学力向上に向けた具体的な取組について研修会を開催したりするなど、授業改善や教員の指導力向上のための、市の中心的役割を担っています。

- ⑤ 市内小・中学校教員の参加希望者を対象に「教師塾」を年間10回程度実施し、毎回多彩な講師による指導のもと、教員自らの授業実践力の向上を図っております。
- ⑥ 国語と算数・数学の到達度テスト（CRT 検査，対象：小2～中3）を実施し、市内小・中学校長会との連携によりその結果分析を市内小・中学校教務主任が行い、教務主任者研修会を通して授業の工夫，改善策をまとめ，各校の授業づくりに生かしています。
- ⑦ 県教育委員会に加配教員の配置拡充を要請し，TT 指導や少人数指導など個に応じた指導体制工夫を図っていきます。
- ⑧ 主体的，対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）などの効果的活用により，教科の特性に応じた授業づくりを進めるとともに，新学習指導要領の完全実施に向けた年間指導計画の早期作成と自校化を進めていきます。
- ⑨ ICT 機器及び環境整備を進め，効果的な教材の開発と児童・生徒の興味関心を高める授業づくりに取り組んでいきます。

（2）学習習慣の定着に向けて

- ① 中学校区ごとに，小・中学校が定期的に情報交換を行い，中学校区共通で学習習慣の定着について確認をし，指導の徹底を図っています。
- ② 宿題に加え，児童・生徒が自ら自主学習に取り組むことができるような課題の与え方を工夫し，家庭学習推進の啓発を図ります。
- ③ 家庭と連携し，児童・生徒の基本的な生活習慣の確立を目指した取組を強化します。特に，TV 視聴，ゲーム，携帯電話やスマートフォン等に費やす時間の削減に向け，PTA や地域と連動した取組を検討し，実践につなげていきます。
- ④ 学び支援コーディネーター事業により，「週末学習会」を実施したり，放課後や土曜・日曜，長期休業期間の児童生徒の学習をサポートしたりしています。
- ⑤ 各家庭に配付しているリーフレット「家庭も学びの場ー望ましい生活習慣や学習習慣作りに向けてー」や児童生徒に配布している「学習の手引き」に基づき，家庭における生活習慣や学習習慣づくりの呼び掛けを行っています。
- ⑥ 中学校区ごとに，学校図書館支援員を配置し，各小・中学校の図書室の本の整理をしたり，貸し出しにおいてバーコードシステムを導入したりするなど，児童生徒がより本に親しみ，読書活動に取り組むことができるような環境整備に努めています。

（3）志をもつ児童生徒の育成に向けて

- ① 生徒指導の3機能（自己存在感・自己決定・共感的理解）を生かしたあたたかな人間関係づくりや学級づくりを進め，一人一人が大切な存在であるという人権教育の視点にたった教育を展開し，将来に夢と希望を持ち，志高く生きる児童・生徒の育成に努めます。

- ② 市内の中学校区ごとに展開している「志教育」では次のような取組を行っています。
 - ・あったかイートころ運動（「あいさつ」「清掃」「ゴミ拾い」）の継続的な実施と実践発表会（中学校区ごとに年1回）の開催。
- ③ 各学校では、確かな学力を支える健康な体づくりと体力の向上に努めています。
 - ・「体力・運動能力調査」の結果考察に基づく様々な体力づくり運動の取組。
 - ・「はやね・はやおき・朝ごはん」の推奨。
 - ・子どもの健康な体づくりに向けた食育の推進。
- ④ 地域ぐるみで児童生徒を育てる教育活動の充実を図っています。
 - ・コミュニティ・スクールの推進（現在、実施している学校を中心に、平成30年度までに市内全小・中学校をコミュニティ・スクールに指定しました。
 - ・協働教育（プラットフォーム）推進事業の充実。
 - ・職場体験学習等を中心としたキャリア教育の充実。

家庭も学びの場

～望ましい生活習慣や学習習慣づくりに向けて～

<家庭学習の7つのつぼ！>

東松島市学力向上推進委員会

- 1 宿題（課題）以外の学習メニューを自分で考える。
- 2 自主学習ノートをつくる。
- 3 何度も繰り返しやってみる。
- 4 いろいろなことに興味をもって、毎日コツコツ続ける。
- 5 絵や図、グラフなどを取り入れる。
- 6 覚えていないところ、苦手なところを見逃さない。
- 7 1週間のサイクルで自主学習ノートを振り返り、自分のがんばりを見つめる。

<学習を定着させるには復習が大切！>

- 1 学校で学んだことを、家庭で反復すると忘れる量は少なくなります。
- 2 復習は、学んだ直後の方が効果は高くなります。

※具体的なリーフレットは、東松島市ホームページ 教育委員会 学校教育課内にあります。ご利用ください。

※「学力向上に向けた5つの提言」

(平成25年10月 宮城県教育委員会)

- 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子どもの声に耳を傾けること。
どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。
- 2 子どもをほめること、認めること。
子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価の一つです。
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。
学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は授業での理解を早めます。何よりも、保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけにつながります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

理 解・継 続・自校化

(学力向上に向けた5つの提言の充実に向けた「3つの柱」)

(平成29年10月 宮城県教育委員会)

【理 解】

- それぞれの5つ提言の意味を確認しましょう。
(その中に含まれた意味も確認しましょう)

【継続】

- 学校生活のあらゆる場面で継続しましょう。
- 終結まで確実に終える授業を継続しましょう。
- 9年間の継続を図りましょう。

【自校化】

- 自校のよさと課題を踏まえた自校化をはかりましょう。

7 保護者、地域の皆様へ

今回の調査からも、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、知識の活用を図る指導の充実が、学力向上にとって極めて重要であることが分かりました。

また、家庭における「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣はもとより、テレビの視聴時間、ゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンを利用する時間について節度をもつことや、計画的に家庭学習をすることが、本市の学力向上に大きく寄与するものと考えられます。

児童生徒の確かな学力の定着を図るために、各家庭では、以下のような取組をお願いします。

- **基本的な生活習慣（はやね、はやおき、朝ごはん）や家庭学習習慣（学年に応じた内容、時間を決めた取組等）**を身に付けさせましょう。
- **テレビ視聴時間やゲーム、携帯電話・スマートフォン等の利用**については、お子さんとしっかりルールを作りましょう。
- **家庭での読書**をさらに勧め、1つのことに集中する姿勢を身につけるとともに、文字にふれる機会を大切にしましょう。
- 様々な場面において、子どものよさを見だし、**本気でほめてあげ**ましょう。
- 郷土の自然や文化に触れる**幅広い体験**をさせましょう。

自尊感情を養いながら、将来への「志」をもたせることが、学力向上の土台であり、学習習慣や生活習慣の確立に極めて重要です。

今後も、子どもたちに対して、家庭や地域の温かい見守り、お声掛けをお願いいたします。